第八講・短歌・俳句

一、短歌と俳句

①短歌

五・七・五・七・七の三十一音からなる。千三百年以上も昔に生まれ、奈良時代には、現存する最古の歌集である『万葉集』も作られた。

②俳句

五・七・五の十七音からなり、世界で最も短い詩とされる。季節を表す言葉である季語をよみこむ約束がある。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　**次の短歌と俳句（はいく）を読んで、あとの問いに答えなさい。**

Ａ　石走る（いはばしる（わ））垂水（たるみ）の上のさわらびの
　　萌（も）え出（い）づる（ず）春になりにけるかも
　　　　　　　　　　志貴皇子（しきのみこ）

岩の上を水が激（はげ）しく流れるたきのほとりに、わらびが芽を出している。とうとう春がやってきたのだなあ。

Ｂ　みちのくの母のいのちを一目（ひとめ）見ん
　　一目みんとぞただにいそげる
　　　　　　　　　　斎藤茂吉（さいとうもきち）

東北の故郷（こきょう）にいる母が死を待つばかりとなったので、生きているうちに一目会いたいというその一心で、先を急いでいる。

Ｃ　金色（こんじき）のちひさき（い）鳥のかたちして
　　銀杏（いてふ（いちょう））ちるなり夕日の岡（をか（おか））に
　　　　　　　　　　与謝野晶子（よさのあきこ）

Ｄ　雪とけて村一ぱいの子どもかな
　　　　　　　　　　小林一茶（こばやしいっさ）

Ｅ　スケートのひもむすぶ間もはやりつつ
　　　　　　　　　　山口誓子（やまぐちせいし）

(1)　Ａの短歌では、どのようなことから春がきたことを感じ取っているか答えなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(2)　Bの短歌で、母親を思う気持ちがもっともよく表れている言葉を八字でぬき出しなさい。

(3)　——線「金色のちひさき鳥」とは、何をたとえて表していますか。短歌の中からぬき出しなさい。

(4)　Dの俳句と同じ季節をよんでいる俳句を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　夏河をこすうれしさよ手にざ（ぞ）うり　与謝蕪村

イ　流れ行く大根の葉の早さかな　高浜虚子

ウ　外にも出よ触るるばかりに春の月　中村汀女

エ　朝顔につるべとられてもらひ（い）水　加賀千代

(5)　Eの俳句は、どのような気持ちをよんだものですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　スケートがうまくできるか不安な気持ち。

イ　スケートを早くしたくてしかたがない気持ち。

ウ　スケートがうまくできてうれしい気持ち。

エ　スケートならだれにも負けないといばる気持ち。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目 次の短歌と俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　東の野にかぎろひの立つ見えて
　　かへり見すれば月傾きぬ
　　　　　　　　　　　　柿本　人麻呂

　東に広がる野原はほのかに明るくなってきて、ふり返って見てみると、月が西のほうにしずみかけていた。

B　街をゆき子供の傍を通る時
　　蜜柑の香せり冬がまた来る
　　　　　　　　　　　　木下　利玄

C　いつしかに春の名残となりにけり
　　昆布干し場のたんぽぽの花
　　　　　　　　　　　　北原　白秋

D　閑さや岩にしみいる蟬の声
　　　　　　　　　　　　松尾　芭蕉

E　とゞまればあたりにふゆる蜻蛉かな
　　　　　　　　　　　　中村　汀女

(1)　Aの短歌は、どのような時間帯についてよまれていますか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　早朝
イ　昼間
ウ　夕方
エ　深夜

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(2)　Bの短歌では、どのようなことから冬がきたことを感じ取っていますか。短歌の中からぬき出しなさい。

(3)　――線「春の名残」とは、何のことですか。短歌の中から六字でぬき出しなさい。

(4)　Dの俳句によまれているのは、どのようなことに対する感動ですか。次の文の□a・bにあてはまる言葉を、俳句の中からぬき出しなさい。（ひらがなでもかまいません）

そうぞうしい□a□さえも岩にしみこんでいくような、深い□b□に対する感動。

(5)　Eの俳句と同じ季節をよんでいる俳句を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　五月雨（さみだれ）を集めて早し最上川（もがみがわ）　松尾　芭蕉

イ　卒業の兄と来てゐ（い）る堤（つつみ）かな　芝（しば）　不器男（ふきお）

ウ　遠山に日の当（あた）りたる枯野（かれの）かな　高浜（たかはま）　虚子（きょし）

エ　柿（かき）くへ（え）ば鐘（かね）が鳴るなり法隆寺（ほうりゅうじ）　正岡（まさおか）　子規（しき）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三題目　次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　くれなゐ（い）の二*尺（しゃく）伸びたる薔薇（ばら）の芽の
　針（はり）①やはらか（わ）に春雨（はるさめ）のふる
　正岡（まさおか）　子規（しき）

B　*たはむれ（わ）に母を背負（せお）ひ（い）て
　そのあまり軽（かろ）きに　②泣きて
　三歩あゆまず
　石川（いしかわ）　啄木（たくぼく）

C　妹の小さき歩み急がせて
　千代紙（ちよがみ）買ひ（い）に行く月夜かな
　木下（きのした）　利玄（りげん）

D　ねこの子のくびの*すずがねかすかにも
　おとのみしたる夏草のうち
　大隈（おおくま）　言道（ことみち）

＊尺＝長さの単位。一尺は約三〇・三センチメートル。
＊たはむれに＝ふざけて。
＊すずがね＝すずの音。

(1)　――線①「やはらかに」とありますが、何の様子を表していますか。ふさわしいものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア　薔薇の花の赤い色　　**イ**　薔薇ののびたくき
ウ　薔薇の新芽のとげ　　**エ**　春雨のふり方

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(2) ――線②「泣きて」とありますが、なぜ泣けるのですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　母親が年老いてしまったことを実感したから。

イ　母親を背負って歩くことすらできなかったから。

ウ　母親に生まれて初めて恩返しができたから。

エ　母親がやせてしまった理由がわからないから。

［　］

(3) Cの短歌の中から、妹がまだ幼(おさな)いことがわかる句（五・七・五・七・七のうちの一つの句）をぬき出しなさい。

［　　　　］

---

(4) Dの短歌の情景を説明した次の文の［　］にあてはまる言葉を、短歌の中からぬき出しなさい。

草むらの中に［　　　　］の姿(すがた)を見つけることはできないが、つけている［　　］の［　　］だけがかすかに聞こえる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四題目 次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　跳躍台人なしプール真青なり　水原　秋櫻子

B　スリツ(ッ)パを越えかねてゐ(い)る仔猫かな　高浜　虚子

C　せきをする母を見上げてゐ(い)る子かな　中村　汀女

D　万緑の中や＊吾子の歯生え初むる　中村　草田男

E　赤い椿白い椿と落ちにけり　河東　碧梧桐

F　山路来て何やら＊ゆかしすみれ草　松尾　芭蕉

G　つかみあふ(う)子供の＊たけや麦畑　向井　去来

H　薄氷そつ(っ)くり持つ(っ)て行く子かな　千葉　皓史

I　引つ(っ)ぱれる<u>糸まつ(っ)すぐや</u>甲虫　高野　素十

J　さよならを言ひ(い)かねてゐ(い)る＊あきつかな　黛　まどか

＊吾子＝わが子。　＊ゆかし＝心ひかれる。

＊たけ＝背たけ。　＊あきつ＝とんぼ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) Aの俳句の季語とその季節を答えなさい。

季語

季節

(2) Bの俳句からは、仔猫についてどのようなことがわかりますか。次の文の□にあてはまる言葉を、考えて答えなさい。

仔猫が、まだとても□□□ということ。

(3) Cの俳句によまれている子どもの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア せきをしている母親を心配する気持ち。
イ 母親がうるさいので腹立(はらだ)たしい気持ち。
ウ 母親がせきこんでいる様子をいやがる気持ち。
エ 早く母親に遊んでもらいたい気持ち。

(4) DとEの俳句の表現の共通点を説明したものとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 比ゆ表現が読む者の想像を広げる。
イ 感情を表す言葉が多用されている。
ウ 色彩(しきさい)の対照があざやかである。
エ 音数が基本よりも多くなっている。

(5) Fの俳句から、作者が季節のおとずれを感じ取っているものをぬき出しなさい。

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(6)　ＧとＨの俳句について述べたものとしてふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　子供同士がけんかになりはりつめた空気が流れているが、どこかほのぼのとしたところがある。

イ　子供のしんちょうな様子から、わくわくする気持ちときんちょう感とが伝わってくる。

ウ　子供たちがたくましく成長したことに、おどろきながらも喜ぶ親の思いがこめられている。

エ　楽しそうにたわむれる子供たちの様子が生き生きとえがかれ、まるで声までも聞こえるかのようである。

Ｇ［　　］　Ｈ［　　］

(7)　――線「糸まっすぐや」とありますが、なぜ糸はまっすぐに張っているのですか。俳句の中の言葉を使って答えなさい。

［　　　　］

(8)　Ｊの俳句で使われている表現技法を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　反復法　　**イ**　倒置法（とうち）

ウ　擬人法（ぎじん）　　**エ**　体言止め

［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講●確認テスト

次の熟語の組み立てとして正しいものを、後からそれぞれ選びなさい。

1　存在
2　国立
3　読書
4　強弱
5　有無

ア　似た意味の漢字を組み合わせたもの
イ　反対の意味の漢字を組み合わせたもの
ウ　上の字と下の字が主語・述語の関係になっているもの
エ　動作を表す漢字と、「～を」「～に」にあたる意味の漢字を組み合わせたもの

第八講　短歌・俳句

一題目

(1)（例）わらびが芽を出したこと。
(2)一目見ん一目みん
(3)銀杏
(4)ウ
(5)イ

二題目

(1)ア
(2)蜜柑の香せり
(3)たんぽぽの花
(4)ａ蟬の声（せみのこえ）
　ｂ閑さ（しづかさ）
(5)エ

三題目

(1)ウ・エ（順不同）
(2)ア
(3)小さき歩み
(4)ねこの子・すず・おと

四題目

(1)季語…プール
　季節…夏
(2)（例）小さい
(3)ア
(4)ウ
(5)すみれ草
(6)Ｇ…エ
　Ｈ…イ
(7)（例）甲虫が引っぱっているから。
(8)ウ

〈確認テストの解答〉

１　ア　２　ウ　３　エ　４　イ　５　イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。